

作況指数、10a当たり収量及び一等米比率の推移

水稻の調査時期別作況指数及び作柄概況

年 産	10a 当たり 収 量 ( 収 穫 期 ) kg	作 況 指 数				作 柄 概 況
		8月15日	9月15日	10月15日	収穫期	
平成元年産	496	101	101	101	101	東北・北陸は、登熟期の曇雨天等で登熟が阻害されたが、その他の地域では一部を除いて、生育及び登熟共に良好。
2	509	103	103	104	103	近畿以西の一部では、9月中旬～10月中旬の秋雨前線及び台風第19、20、21号により登熟が阻害されたが、その他の地域は生育・登熟共に良好。
3	470	99	98	95	95	道東・道南及び東北は低温と秋雨で登熟不良、北陸は日照不足で生育不良、中四国及び九州は台風により登熟不良。
4	504	101	101	101	101	北海道は冷害、都府県は一部に台風の影響があるが全般的には台風被害及び病虫害の発生が少なく生育、登熟共に順調。
5	367	95	80	75	74	7月以降の異常低温により北日本を中心として大冷害。西日本では台風、長雨による被害。更に全国的にいもち病多発。
6	544	105	107	109	109	田植期以降全国的に高温・多照の天候に恵まれ、被害も少なく、生育、登熟共に良好。39都府県で史上最高の単収。
7	509	100	102	102	102	初期生育は、低温・日照不足で抑制されたものの、梅雨明け以降東北・北陸を除き高温・多照の天候に恵まれ登熟順調。
8	525	101	102	104	105	田植期以降低温・日照不足により北日本で初期生育が抑制されたものの、出穂期以降天候に恵まれ全国的に登熟は良好。
9	515	102	102	102	102	出穂期以降おおむね好天に恵まれ、登熟は良好。一部の地域で9月中旬以降の低温・日照不足や台風第9号、19号の影響。
10	499	99	98	98	98	7月中旬以降の低温・寡照。8月に東北、関東及び北陸の一部の地域で集中豪雨。9月の台風と長雨で穂発芽被害。
11	515	103	102	101	101	近畿から東の地域ではおおむね天候に恵まれ登熟が順調。中国・四国、九州では台風第18号(9月24日)による被害。全国で高温による乳白、カメムシの被害発生。
12	537	103	103	104	104	北海道、東北及び北陸でもみ数やや少ない。北関東の一部で9月上旬の高温及びその後の秋雨前線の影響により登熟抑制も、全国的には7月以降おおむね天候に恵まれ順調。
13	532	-	103	103	103	北海道、東北太平洋側8月上旬以降低温・日照不足により登熟が緩慢も、その他の地域では7月以降概ね好天。北海道100、沖縄82の外は各地域で102～104。
14	527	-	101	101	101	北海道で7～8月の低温・日照不足によりみ数やや少なく、登熟もやや不良で作柄不良。青森、秋田で日照不足によりみ数少なく、作柄やや不良。関東以西は一部で台風等の影響があったが、天候に恵まれ作柄「平年並み」以上。
15	469	-	92	90	90	北海道、東北で7月中・下旬の低温による不稔もみ多発、9月中旬以降の低温やいもち病の多発による登熟不良等のため、北海道73、東北80。その他の地域(沖縄を除く)も、日照不足・いもち病の多発で93～96。
16	514	-	101	98	98	北海道から近畿にかけての太平洋側は概ね登熟良好。8月中旬以降相次ぐ台風、長雨の影響により北海道、東北及び北陸の日本海側、中国、四国及び九州で被害。
17	532	-	102	101	101	台風第14号や登熟期間の高温、ウンカ等病虫害の影響により、九州を中心に被害が発生したものの、それ以外の地域では登熟がおおむね順調。
18	507	-	97	96	96	日照不足等により北海道を除く地域で全もみ数が平年を下回った。九州を中心に台風第13号による潮風害等の被害が発生した。
19	522	-	99	99	99	7月は低温・寡照で経過し、南九州の早期米では台風第4号の影響による乳白米等が例年になく多発。登熟期間は高温・少雨傾向で経過し、関東以西で登熟がやや抑制。
20	543	-	102	102	102	低温・日照不足により初期生育が抑制されたものの、梅雨明け以降は天候に恵まれ生育は回復。台風の上陸もなく全般的に登熟は順調。
21	522	-	98	98	98	全国的に梅雨明けが遅く、7月の寡照でもみ数は抑制。9月の天候は多照で推移し、登熟はおおむね順調。北海道は冷害の影響で作柄不良。
22	522	-	99	98	98	5月中旬～6月上旬の低温・日照不足等によりみ数が抑制。梅雨明け後9月上旬まで全国的に記録的な高温で推移し、関東・東山及び中国では一部地域で白未熟粒等が多発。
23	533	-	101	101	101	5月下旬～6月中旬にかけての日照不足等の影響がみられたものの、その後の天候がおおむね順調に推移したことから、全もみ数はおおむね平年並みで、登熟もおおむね順調。
24	540	-	102	102	102	全もみ数は日照不足等の影響がみられた九州を除き概ね平年並みとなり、登熟も概ね良好であったことから九州97、沖縄86以外は各地域100～107。
25	539	-	102	102	102	生育期間中、全国的に天候に恵まれたことから全もみ数はおおむね平年並み以上となった。登熟は秋ウンカ等の被害が発生した中国、四国及び九州を除いて順調に推移。
26	536	-	101	101	101	北海道から関東・東山では、全もみ数が総じて多く、作柄がおおむね平年並み以上となった。一方、東海以西では、日照不足・低温や病虫害の影響により全もみ数及び登熟が平年を下まわった。
27	531	-	100	100	100	北海道及び東北では、全もみ数及び登熟がおおむね平年を上回った一方、関東以西では、全もみ数は地域によって差があったものの、8月中旬以降の日照不足や台風等の影響により登熟が総じて平年を下回った。
28	544	-	103	103	103	生育期間を通じておおむね天候に恵まれたため、生育及び登熟は順調であった。全国の単収は平成6年並みとなり、北陸4県の単収も史上最高。

注：1 平成12年産8月15日の作況指数は9月1日の値、平成16年産9月15日の作況指数は9月10日の値である。

2 平成27年産以降の作況指数は、農家等使用ふるい目幅ベースの数値である。





